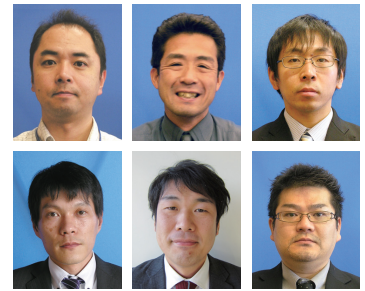


施工パッケージ型積算方式の適用工種拡大について



防災・メンテナンス基盤研究センター 建設システム課
 主任研究官 山口 武志 研究官 桜井 真 研究官 永島 正和
 交流研究員 中原 敏晴 交流研究員 大山 憲英 課長 山口 達也

(キーワード) 施工パッケージ、積算

5.

仕事の進め方のイノベーション

1. はじめに

国土交通省では、積算の効率化等を目的として、平成24年10月より新しい積算方式である「施工パッケージ型積算方式」の試行を開始し、平成25年10月には適用工種を拡大している。平成26年度は、さらなる適用工種拡大の検討に加えて、試行中の施工パッケージの一部見直しの検討を行った。また、昨年度に引き続き、試行状況の調査を行ったので紹介する。

2. 施工パッケージ型積算方式の適用工種拡大

施工パッケージ型積算方式とは、直接工事費の積算を施工単位ごとに機械経費、労務費、材料費を含めて設定した標準単価を用いて計上し、共通仮設費、現場管理費及び一般管理費等の間接費を従来の積上積算方式と同じ率式等を用いて計上する積算方式である。価格の透明性を確保するため、標準単価、機労材構成比及び標準単価から積算単価への補正方法も公表している。

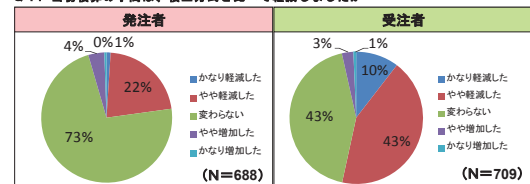
平成24年10月より、3工事区分（舗装、道路改良、築堤・護岸）の主要工種に63の施工パッケージの適用を開始し、平成25年10月からは、さらに6工事区分（道路維持、道路修繕、河川維持、河川修繕、砂防堰堤、電線共同溝）の主要工種に146の施工パッケージを追加した。

平成26年度は、さらなる適用工種拡大を図るため23工種103歩掛を対象に検討・分析を行った。また、すでに試行している一部の施工パッケージについて、根拠となる歩掛の改定に伴う再分析や、利便性の向上等を目的とした条件区分や適用範囲等の見直しのための検討・分析を行った。

3. アンケート調査結果について

昨年度に引き続き、施工パッケージ型積算方式についてアンケート調査を実施した。各地方整備局、北海道開発局、沖縄総合事務局の各事務所を対象として、平成25年度に施工パッケージ型積算方式を用いて発注した工事から約700件を抽出し、受発注者それぞれに行った。主な調査結果は、図に示すとおり手間の軽減や価格の透明性が高まっていると感じている割合が多い結果となり、これは適用工種が拡大される前の昨年度のアンケート結果とほぼ同じ傾向であった。

Q1. 当初積算の手間は、積上方式と比べて軽減しましたか



Q2. 標準単価や補正式を公表することで積上方式と比べて価格の透明性は高まりましたか

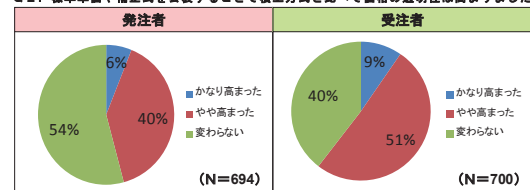


図 アンケート結果

4. まとめ

これまで施工パッケージ型積算方式の適用工種拡大に取り組んできたが、今回新たに再分析を伴う一部見直しも行った。今後も、現場の実態等を踏まえ、効率的で使いやすい積算方式となるように努めてまいりたい。

【参考】

国総研HP

http://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/theme_sekop.htm